



山 8
467
卷 7



和漢船用集卷第八

目錄

舟名數詞之部

呼古人名為舟名之部

呼帆為船名之部

呼棹楫為船名之部

船異名之部



和漢船用集卷第八

金澤兼光編集

舟名數詞之部

新造船

新造船 索隱比事曰許元取新造船焚之又階

海船

海船 薛道衡句勺新造木蘭楫之作也

後撰 並又海中之大船と云へり

河舟

河舟 遮洋船 同字彙云 舩 舩 舩 撥 霽

溪上舟

詩料は雪月追君溪上舟

大船

大船は小舟の如くもさるべし

小舟

錦繡段 無数飛華送小舟

尊舟

小舟同伊後氏曰拍案驚奇曰把小女竟送尊舟

在舟

浦めぐり小舟はさく村をさるといふれと又そあり

在舟

彦星は川原と海とをたぬ舟とていふ

木葉船

木の葉は舟の如くもさるべし

遥望若一樹葉

又詩は乾坤不碍舟如葉と似たり

舟拾ま 後れへと漕マは山ちりと思はちる本の多きやアハ

蓮花舟

是も本の多き舟と同一又舟はあまの舟のす風

蓮花落浮于川也

又細舟のさる糸と別は橋舟の下に沈はるは

細船

細き舟と云かり武徳志に曰王僧辨麾細船皆退留大艦

發船

日本紀自難波發船武備志發船之期其外詳書に

開船

大學衍義補正月以後開船伊後氏出帆と後り

出舟

垣谷漕申は儂の出舟と上舟と麻のくちりすりあり

おぼろ船 夫本 川のまはにわつる舟はさむむん浦の浅れらるのあけすの 中巻の女

入舟 夫本 入舟れいかの浅れらるかみなりはせやふつる秋のよれ月 あ尹

和国舟 夫本 てる月よさすのあすれあられやまひいさぬと此舟 深光

舟舟 秋拾 舟まとも海は嵐のあけいつこの浦は浅舟つあらん

月舟 夫本 さうのわり月舟やいそくじかろろ舟そよ秋はらな

月明船 夫本 月の舟さうらりりおれ海星のほやしをれ舟はら

秋舟 夫本 天の秋の舟はさうらりりまらるる舟のかり合 園を

花の舟 夫本 志の浦やすむ浪を吹りり舟の舟はらるの山風 は下空田

花の舟 夫本 志の浦やすむ浪を吹りり舟の舟はらるの山風 は下空田

花の舟 夫本 志の浦やすむ浪を吹りり舟の舟はらるの山風 は下空田

貢舟 夫本 船波のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

玉積船 夫本 光をさうらりり舟にけむむ舟とては舟はらる

乗舟 夫本 毛詩ニ子乗舟章あり又軍船よさ舟はらる

舟舟 夫本 舟のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

舟舟 夫本 舟のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

舟舟 夫本 舟のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

舟舟 夫本 舟のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

舟舟 夫本 舟のまはさきく舟はらるる舟の舟はらる

繫船 ツナキ 三體詩 孤舟繫柳陰 コニツツタリウインニ

玉吟 よこ川の入江の岸に柳のつらふさふさの舟をさむむ里れり

けさぬ舟 カチナキ 莊子曰は然若不繫之舟 賈誼鵬鳥賦曰若不

繫之舟 源氏をよ免のきふつふりぬ舟のりてい

あられ又つらぬ舟のきき世よりささめいひつそくへん

無楫舟 カチナキ 五車韻瑞劉畫履信曰雖欲立行而不立信猶

無楫而行舟也

百人 ヤルカ 舟れをさる舟人楫をさる舟もあはぬ意のた

本船 モト 氏徳志は各照本船號帶方色とるくより大船と

枝舟 エタ 云沖より上流をさる小艇より大船とさる元船を

枝舟のしんかんへり

類船 ルイセン 挨拶同字彙曰江中兩船相之曰一ト一ト 盜暗曳船

行却曰抽搦とるくより和漢とも同義也曰

連の舟をさる一艘を呼て斤舟と云云よめ

友舟 トモ 友舟あり

友舟 トモ 梶まくら一葉をさる友舟も好れをさるやおのり

沖は友舟 トモ 浪たぬ浦の船あきけくときさる沖の友舟

院次

公相

浦の友舟 子當不食 あらうき浦の友舟と云はれ旁にたゞる夫のあまの

灘の友舟 新後拾遺 昔の意はあまのき月夜と云はれてるあまの友舟

室の友舟 夫本 みかど沖のさくらよきもたえそやのぬ家の友舟

遠の友舟 好多幸年 くれはる波の葉は子清てあきやう程ふはるの友舟

よの友舟 玉素 秋とてまき浦ゆふもあまやうまき声するよの友舟

象の友舟 秋歌 又書はるとい佳ぬ南田我友舟もあまやうやう

秋の友舟 秋歌 秋のともあまのさうのうたはる波のうたの秋の友舟

末の友舟 秋歌 末のあまの波のうたのうたのうたのうたの友舟

百舟 万葉 ままかみみぬぬの浦の百舟と云はれはるはるあまの

子船 チフ子日 流きよき浦のうらと云はれはるはるあまの

多舟 宝珠の百葉 あれもはる波の浦のうらと云はれはるはるあまの

群船 キヨラシ 太平御覧果遇暴風群船盡没

汎舟 レキシ 史記周僖公十三年冬晉薦餓使乞糶于秦百

道有福秦於是輸粟于晉自雍及絳相繼命之

曰汎舟之役後氏又汎舟の事をあり

浮舟 新勅撰 うたはれたよもあまの波の浦のうらと云はれはるはるあまの

舟 源氏物語 いさかた船子と云はれはるはるあまの

舟 舟の載 舟の浦の昔の浪ははるはるあまの

中葉公卿集

續古今

よれ浮舟 舟の香や粒と濁らんたらふれと まふしをせし板舟は浮舟

よれ浮舟 舟の香や粒と濁らんたらふれと まふしをせし板舟は浮舟 舟大匠

鴨の浮舟 舟に上りて 水に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

浮たる舟 舟に上りて 舟に上りて

浮ある舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

うく舟 舟に上りて 舟に上りて

先達舟 於五 漕出てとてきた海とみ後せを先ん舟は漕に消ぬ 煮後

不舟 八 舟は抄藤垣まよふたよきこたう舟といふ

種舟 五 舟は又帆舟とあるハ帆舟とあるハ

浦風のさそふもろくは種舟は舟の舟は舟といふ 家港に

いさかけ舟 吳行舟の帆かけ舟といふ

舟 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

舟 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

舟 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

舟 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

後王船 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

刺船 舟本 舟は舟の舟は舟といふ 舟本

無有乃止

夫本 光後 辰ちくくよむのまへにたれどもいふまじしとていふこと

舟形舟 丸床 妻居たてあつと船を船作り舟形舟あつとていふま

さへ舟 夫本 船を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

さへ舟 丸船 さへ舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

舟形舟 字源舟 さへ舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

舟形舟 丸船 さへ舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

さく舟 夫本 白浪をとりし舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

舟形舟 夫本 あつたれは舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

春漕舟 新指 船を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

秋漕舟 後指 天のうらまきは星の秋に舟を造りしとていふこと

浦漕舟 風雅 さへ舟のあまは浦を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

仲漕舟 多の載 よさへ舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

波漕舟 万全 さへ舟は舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

朝漕舟 夫本 あつたれは舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

秋漕舟 長崎 浦を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

舟漕舟 万全 おとを舟のまゝに舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

舟漕舟 万全 このまゝに舟を造りしは昔のまゝに舟を造りしとていふこと

多く舟 舟五 しく舟かかへんはよせんとせむしへん舟は舟なり

きく漕舟 呉河集よきいしくいせふも漕舟と云ふなり

を小漕舟 舟五 みくぬの漕舟より舟なりと舟は我なりと舟は舟なり

恒強漕舟 舟五 舟の舟の恒強と漕舟の舟は舟なりと舟は舟なり

夕恒漕舟 舟五 舟の舟の夕恒と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

浦迄漕舟 舟五 舟の舟の浦迄と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

浦迄漕舟 舟五 舟の舟の浦迄と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

後漕舟 舟五 舟の舟の後漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

後漕舟 舟五 舟の舟の後漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

若く漕舟 舟五 舟の舟の若く漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

湊漕舟 舟五 舟の舟の湊漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

入舟漕舟 舟五 舟の舟の入舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

舟漕舟 舟五 舟の舟の舟漕と舟の舟は舟なりと舟は舟なり

吾舟の海船と云ふなり

吾舟のあきいさるま向舟かき結るも浦よきつたん

去舟

藤垣ま波にき也庚申より

登

庚申よりゆいさの舟より

丁卯

舟船

三體詩行舟緑水前 又往舟往船同

和舟

和舟の系りうじすても舟は海をうけ世と云ふ

舟船

冠波方舟より舟は海をうけ世と云ふ

往來舟

白氏文集 登樓 空望往來舟

去舟

舟は海をうけ世と云ふ

沖行船

沖行船の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

浦舟船

浦舟船の舟は海をうけ世と云ふ

去舟

去舟の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

舟船

舟船の舟は海をうけ世と云ふ

風船 新後抄 舟より浦風は舟の吹くはくはくはちきりハ 因船

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 改

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

舟 舟 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

波 新後抄 舟の吹くはくはくはちきりハ 舟

よられぬ舟 夫本 さまの浦に碇りし舟すの沖に舟をよられぬ舟の碇りし舟 作經

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

舟の碇 万葉 舟の碇は人のまぶさく舟の碇は舟の碇は舟の碇 下畧

たむさぶ船 かき ちかちかたむさぶ船は信るよりたむさぶ船はたむさぶ船と

ゆきゆき船 ゆき いせの海はゆきゆき船はゆきゆき船はゆきゆき船と

波うら船 夫木 上をうら波うら船のまはるは波うら船のまはる船と

まむ船 夫木 いまむ船はたつの一まむ船よりいまむ船はたつ船と

あまの船 夫木 いまあまの船はたつ船よりいまあまの船はたつ船と

ゆきき船 ゆき 舟田川今昔のみやこよりゆきき船のゆきき船と

えへぬ船 玉葉 仲はあまをえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

たむさぶ船 かき ちかちかたむさぶ船は信るよりたむさぶ船はたむさぶ船と

ゆきゆき船 ゆき いせの海はゆきゆき船はゆきゆき船はゆきゆき船と

波うら船 夫木 上をうら波うら船のまはるは波うら船のまはる船と

まむ船 夫木 いまむ船はたつの一まむ船よりいまむ船はたつ船と

あまの船 夫木 いまあまの船はたつ船よりいまあまの船はたつ船と

ゆきき船 ゆき 舟田川今昔のみやこよりゆきき船のゆきき船と

えへぬ船 玉葉 仲はあまをえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

えへぬ船 かき 舟きちくえへぬ船はあまをえへぬ船と

津浦舟 万安 津浦の津は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

湊舟 夫木 湊舟のけがきれ湊舟の船の我をこころたえぬおりのい

浪舟 王系 浪舟浪舟の舟も不のうなり松浦の沖の津舟の

遠近舟 夫木 遠近舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

捨舟 源後七言 捨舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

浦舟 王系 浦舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

灘の舟 源後七言 灘の舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

定舟 源後七言 定舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

世に捨舟 源後七言 世に捨舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

舟と捨舟 源後七言 舟と捨舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

云舟 源後七言 云舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

在船 源後七言 在船の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

あふり舟 源後七言 あふり舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

志舟 源後七言 志舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

南田川あふり舟 源後七言 南田川あふり舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

志舟 源後七言 志舟の舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらあつたれ 源後七言 くらあつたれの舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらあつたれ 源後七言 くらあつたれの舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらあつたれ 源後七言 くらあつたれの舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらあつたれ 源後七言 くらあつたれの舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらあつたれ 源後七言 くらあつたれの舟は又あつたれ風とて風はあつてもたふたふね

くらくらも不安ほよそちんかあつりぢく
季吟曰くちちつりぢやそつらえまありくす家
申入里のくくちんかあつりぢく

万葉 くくらひひくあきまき志富あまらちまけぬきやうり

何や舟 ハヤシ 八雲法師よつり

はく船 藤垣まよ射舟也大船といふり

あし船 藤垣まよ射舟といふり

阿基船 口くくち舟の名といふり

さそ舟 口藤垣よつり

ひこ舟 万葉 あつりの舟はあつり舟といふり

ひく船 日 風吹て河原たちぬひ舟は海のもきまを救はけぬま

ひき舟 万葉 さそらあつり舟といふり

通し船 万葉 舟のくくち舟のあつり舟のあつり舟

くくち舟 万葉 舟のあつり舟のあつり舟のあつり舟

あつり舟 万葉 舟のあつり舟のあつり舟のあつり舟

あつり舟 万葉 舟のあつり舟のあつり舟のあつり舟

あつり舟 万葉 舟のあつり舟のあつり舟のあつり舟

あつり舟 万葉 舟のあつり舟のあつり舟のあつり舟

派舟

伊勢の派舟も舟なり〜

伊勢

沈む船

忠見

沈まぬ舟

あやまりの舟りて思ふの〜

救船

魏志董昭傳云軍未時進賊救船遂至

船舟

船の法は浪風あ〜

山家

船舟と云は〜

西

空船

右文系集守空船又沖舟と舟雜字大全

舟の名有て別物の船はあり

虚舟

於

志法

文選虚舟有超越莊子曰有虚舟來觸舟輪曰

輕舟而進曰虚舟伊反氏乃き〜

虚舟也今をふ縁とも云

玩

忠基

琵琶行東船西般と云〜

舟と云又あ〜

後なり

西般

明列より日本の方ハ東と云〜

万里船 杜甫詩下臨不測江中有万里船

便船 曾南豐集劄子候有便船卻歸本國

便舟 小窓別記袁宏道游德山記曰適有便舟

便航 輟耕錄曰幸君便航可以附達

商船 商人の舟此むとるもいふは後

賣船 青くはハ賣買の舟送すハ故商人舟と云ふ

賃船 武備志又雜字大全僱船賃船と云者賃

燧船 商船ハ海舟河舟とも云ふ又ハ...

番船 長崎ハ首の異國舟とも云ふ又...

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

船 長崎ハ船子の舟とも云ふ長崎番舟とも云ふ

箒船

漢書曰船五丈以上一箒

役舟

諸船民家の船おろり 沖公役の船は水にまか

裸船

天工開物曰江漢課船身甚狹小而長上

列十餘倉每倉客止一人卧息首尾其槳六

把又驛舟驛舫ともいふ

副船

廣輿記曰晉陸納出為吳興守外日宜裝

幾船納曰無行裝不順副船也止携襪被而

去 大船を小船といふ

夜航船

輟耕錄曰凡篙師於城埠市鎮人煙湊集去處

招聚客旅裝載夜行者謂之夜航船太平之時處處有之然古樂府有曲と云ふ又皮日休詩携酒三樽寄夜航是和漢業回川舟は八伏又船是と三十石又船と云城別伏是よかろく旅飯は菓の宿又旅は此者旅人を以て船と云ふ或ハ舟一切を夕アアは休るふきて終は旅は城よき船は十餘里是を船と云大坂より又去り海舟は八巻底舟船を船揚別大坂より旅宿を社敷載せ夕アハ

さておのゝ播別ゆゑに子孫に其船及海とす
里のふよりも又何一は僕より其の航船之

客船

三體詩 夜半鐘聲到客船

使客舟

鶴林玉露 只選年、使客舟

點燈船

三體詩 犀觸點燈船

滿船

錦繡段 滿船清夢厭星河

月滿船

五車韻瑞ふ出

春水船

鶴林玉露 春水船如天上坐

飾船

日本紀裝飾船 又以饒船三十艘迎客等子江口

同船

日本紀ハシフ子又モロキフ子と洲以同舟とも

同舟

易略例曰同舟而濟吳越何患乎異心也

過船

綿繡段 無數過船看不見

過江船

初學詩料夢魂空寄過江船

回舟

同上 曲渚回舟帶夕陽

停舟

同上 莫惜停舟酒屢傾 又留船止船並同

別船

日本紀曰皇后別船自洞海入之 宋書王裕之

他舟

續綱目宋紀乃易他舟而去

中華公刊錄 卷之八

餘舟 同上餘舟

孤舟 白居易詩

輕舟 船同字彙

散舟 文選注銜

扁舟 小舟也

扁舟のク

莫笑扁

淮南子

維舟 杜甫詩

幹舟

堅船 通鑑梁

完舟 白氏文集 于此伊

渡頭船 夜

臨船 荒政要說 赴

每船 各

諸舟 諸

敵船 賊

得船 法華經藻

中候 松朝 蘇

此日 白 四

歸書 也 淵 扁 舟 帶

者 有 五

呼古人名為舟名之部

野人舟	西子舸	范蠡舟	子猷船	孝廉船	李郭舟	楚王舟	武王舟
陳子昂詩	杜牧之詩	孟浩然詩	高適詩	杜甫詩	李巨仁詩	李嶠詩	何遜詩
終愧神仙友	西子下姑蘇	天地莊生馬	閑岳太公鈎	雲深驃騎幕	苑結蕭朱綬	既能甜似蜜	方遊蓮葉外
來接野人舟	一舸逐鴟夷	江湖范蠡舟	興發子猷船	夜隔孝廉船	爭攀李郭舟	還遠楚王舟	誰入武王舟

呼帆為船名之部

五枚帆 或ハ五端 拾端十五端 二十端 三十端 として
 帆の布敷を呼て舟の名と云ふ 海舶三
 枚帆の下よあるは又帆のハ司具の終よのハ
 三體詩 風正 一帆懸
 同片帆 歸去就鱸魚 又韻瑞子半帆と云
 夕陽日和田のみさたを漕舟片帆引也武原浦凡
 三體詩 一片春帆帶雨飛
 杜甫詩 秋帆 惟客帛

和漢松園集 卷之八

輕帆 三體詩

一片輕帆皆夕陽

風帆 同

風一帆 幾處客

遠帆 同

分明百里遠帆閑

雲帆 同

雲一帆 凝浦橋

懸帆 同

心憶懸帆身未遂

掛帆 杜甫詩

掛一帆 邊色外

孤帆 三體詩

江上孤帆影草綠

獨帆 杜甫詩

獨一帆 如飛鴻

征帆 三體詩

一點征帆萬里回

去帆 李白詩

目隨行路斷 心逐去帆揚

客帆 孟浩然詩

湖平津澤瀾 風止客帆收

舉帆 選詩

片江方舉帆

歸帆 詩料

歸帆一片斜 又八景題遠浦歸帆

滿帆 同

滿帆行色背孤城

飛帆 同

兼風一舸掛飛帆

短帆 同

生一涯 一短帆

數帆 同

數帆和雨下歸舟

暮帆 同

笛起暮帆 猶認火

椰帆 ヒシツキウ 皮日休詩
 椰帆 カハツアモキユセン 却用禪扉
 黨帆 タウ

呼棹楫為舟名之部

孤棹 コタウ 三體詩 孤棹宿巴陵
 征棹 セイタウ 同 征棹復嘔啞
 獨棹 トク 錦繡段 得似寒江獨棹飯
 歸棹 キ 王勃詩 歸棹隱寒洲
 返棹 ヘン 孟浩然詩 返棹歸山河

舟之異名之部

輕橈 ケイケウ 宋謝瞻詩 星羅遊輕橈
 酒橈 シュケウ 選詩 行當泛酒橈
 歸橈 キ 李白詩 自可緩歸橈
 蘭棹 ランタウ 縱一張一逸一輟一停一別一舉
 理一緩一放一移一短一小一煙一夜一飛一飛楫
 蘭橈 ランケウ 桂楫歸一鳴橈 畫一蓀一畫楫 以上五車韻瑞出

香水 鳥尾 閣岸 以上雜字 舩舩 舩舩 舩舩

舩カワノ 艘ハツロ 以上カク 海鶴カク 軌鴉キア 孤蓬コホウ 風檣フタレ

風纜フウラン 游家ユウカ 浮宅フタク 浮家フカ 泛宅ハン 以上二名カク

志和シカ 湖州コシ の刺史シ たり 顔カ 玄卿エン 又マタ 渴カク 一ヒト 名ナ 御船ミフネ の被カ ねる

龍臙リウヤウ 舩フネ 舩フネ 浮景フケイ 漾彩ヤウサイ 濯鷁タクアキ 上林賦シヤリン 漢カン 鄧トウ 通ツウ

畫棟クハトウ 古文後集コクブンゴウシツ 畫棟アタタ 朝飛チウヘ 南浦ナンポ 雲クモ 異名集イメナ 集シツ 云ク 北夢ホクム 債言シヤク 霧是山巾子キリハユキヤンキン 船フネ

水鞞鞋スイキョウ 為ナリ 一ヒト 同ドウ 上宋シヤウソウ 太祖タイソウ 呼舟フフネ 云ク 一ヒト 波車ハクルマ 口クチ 海舟カイフネ のナ 名ナ

水虎捷スイコケ 同ドウ 上宋シヤウソウ 太祖タイソウ 呼舟フフネ 云ク 一ヒト 波車ハクルマ 口クチ 海舟カイフネ のナ 名ナ

水虎捷スイコケ 同ドウ 上宋シヤウソウ 太祖タイソウ 呼舟フフネ 云ク 一ヒト 波車ハクルマ 口クチ 海舟カイフネ のナ 名ナ

艘子フネコ 杜詩トシ 貧窮取給行ヒンキウキョクキョウコウ 艘子フネコ

溪鼠ケイソ 小舟の名コボネノナ 琢タク 玉キョク 雜字ザクジ 曰イハレ 小船コボネ 支流シヤウリウ 之處トコロ

一葦イチイ 毛詩モウシ 誰謂タレカ 河廣カハヒロト 一葦イチイ 航カウ 之シ

一葉イチエフ 古文コクブン 駕カス 一葉之輕舟イチエフノケイレフフネ 合類節用カウレイセツヨウ 扁舟也ヘンフネナリ といイハレ あり

夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ 夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ

夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ 夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ

夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ 夫トコ 浦風ウラカゼ のナ 名ナ 也ナリ

競渡キョウト 荆楚記ケイツクキ 曰イハレ 五月五日ゴゲツゴニチ 屈原クワン 以是ヨリ 日死ヒシ 於ケル 汨羅ヘキ

水車スイキヤ

人以舟拯之今競渡其遺俗也又曰取其輕利謂之飛鳧フイフ

類函曰抱朴子曰屈原沒汨羅之日人並命舟楫以迎之至今以為競渡或以水車謂之飛鳧亦曰水馬スイハ

飛鳧ヒフ

水馬スイハ

鳧車フシヤ

連排レンバイ

舟競フネキマヒ

万葉云大友人の船をりてあまの川をりて舟をり

季吟の日記ありて云く舟をりてあまの川をりて舟をり
さぬかり舟競ハ舟の速速とありてそをり
吳船の競舟は競之楚俗不愛力費力有競渡
と云々を注せり

草庵集

吳の舟ありて川の舟をりてあまの川をりて舟をり

和漢船用集卷第八終

手澤庵月集

卷六

